

ひと・しぜん・いきもの 伝説の川の王者オオサンショウウオ

オオサンショウウオのことを、別名“ハンザキ”ともいう。名前の由来が「からだを半分に裂いても生きていそうだから」「からだが半分に裂けているような大きな口だから」などとも言われる動物だが、その生息数は減少しており、国の特別天然記念物にも指定された絶滅危惧種である。



注目ポイント
その1

ハンザキは真庭市だけでなく、西日本一帯に生息している絶滅危惧種である。真庭市のうち、旧湯原町・旧川上村・旧八束村・旧中和村の全地域が、“オオサンショウウオの生息地”として1927年に天然記念物に指定され、国内最大級の広さを持つ。

注目されるわけがある！

注目ポイント
その2

その昔、この分野で著名な研究者たちが、ハンザキ研究のため旧湯原町などになんども訪れた。そのことは古い書物や報告書として存在し、今では貴重な資料となっている。(肖像画はイメージ)



石川千代松先生
明治の中頃



田子勝弥先生
大正後期～昭和初期



川口四郎先生
昭和後期～平成初期

注目ポイント
その3

真庭のハンザキは、全国で唯一、神様としてあがめられ、湯原温泉の近くには小さなほこらがある。事の始まりは400年ほどさかのぼり、当時の村人がハンザキのたたりを恐れてつくったもので、地元では“はんざき大明神”の伝説が語り継がれている。



はんざき神社の昔(左)と今(右)



湯原ではハンザキをまつるため、毎年8月8日に“はんざき祭り”が行われている。華やかな道中ばやしとはんざき山車が湯原温泉街を練り歩き、最近では、“はんざきねぶた”が登場するようになった。



はんざき保護センターでは、水槽内にハンザキが飼育されている。



湯原温泉にはハンザキにちなんだ土産物がある。ここには昔からハンザキと寄り添うように生活する人々の姿がある。

ひと・しぜん・いきもの 野焼きが守る草原の生きもの

蒜山高原の西にある鳩ヶ原周辺は、青々とした草原が広がり、かわいらしい草花や希少な生きものが生息するホットスポットである。草原は、長年続けられてきた春の野焼きが作り出している。この野焼きこそが、多くの生きものたちに息吹を与えているのである。

昔から続く春の野焼き。
地元の人たちが行う大切な作業である。



春

焼けた灰は養分となり、青々とした草原に変わり、生きものたちがいっせいに動き始める。



夏



冬

雪が積もる前、野焼きの延焼を防ぐ“火道（ひみち）”という草刈りをする。



秋

草原は小麦色に変わり、これから来る寒い冬を越して春を待つ。

草原は人々の手によって守られ、人手が加わることによって生きものたちが生きていくことができる。



オオヨシキリ



フサヒゲルリカミキリ



ツマグロキチョウ



ヒメシジミ



ギンイチモンジセセリ



サクラソウ



ササユリ



キキョウ



オミナエシ



ツリガネニンジン

ひと・しぜん・いきもの 使い川が育む人と生きものの暮らし

蒜山地域の家のそばには、川から水を引いた“使い川”という水路が見られる。その昔、水は飲料水をはじめ、野菜や食器、家畜の洗い用に利用された。その頃の生活様式はほとんど見られなくなったが、今でも人々が水を大切にしながら暮らしている。



家の前を流れる小さな水路。
横にある池の水にも利用。



水路の横に古い水車がある。かつては米つきのため水車を回していたのだろう。



近くに住む人が収穫した野菜を洗いにくる。
水路の脇には水神様が置いてある。



水場には石段をつけてある。

使い川は、生活水だけでなく、生きもののすみかにもなっている。



カワシンジュガイ

蒜山に生息する希少な貝。ごく一部の溪流や水路に住み着いている。



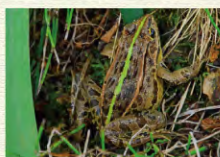
オオサンショウウオ

夜になると、どこからともなく姿をあらわす。



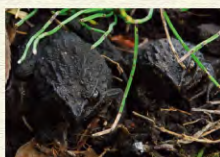
ヒルゼンバイカモ

蒜山の人々にはごく普通の水草。きれいな水にしかな生育できない。



トノサマガエル

初夏になると、水路の周りでは“カエルの大合唱”が始まる。



ツチガエル

水路の周りには庭木が日影になって住むには好都合だ。



アカハライモリ

水路の底や石の下でおとなしく生活している。

ひと・しぜん・いきもの 蒜山の植物から作る伝統工芸品

“がま細工”と“郷原漆器”は、岡山県指定の郷土伝統的工芸品となっているが、元々は蒜山地域の人々の日用品であった。材料は全てこの地域に生える植物に由来するもので、それぞれの特性を知る人々の知恵によって作りあげられたものであり、地元に植栽し次世代へとつなげていく取り組みもなされている。

蒜山のがま細工



かつてがま細工は県北各地に存在したが、今に残るのは蒜山だけである。



ヒメガマ

がま細工は、蒜山に自生する植物、ヒメガマとシナノキから作る。がま細工の大部分に使うヒメガマは、普通のガマに比べて、加工しやすく耐久性があるという。シナノキは、皮の繊維をひもの代用として利用する。

休耕田を利用したヒメガマ栽培



がま細工はごく日用の道具として作られ、古くは1300年代から使われてきたという。



がまを編む ▶



◀ シナノキの皮でひもをよる

川上の郷原漆器



600年の伝統を持つ漆器。蒜山のクリ材を使い、木目を大切にしながら天然の漆で仕上げる。塗りがしっかりとしていて使いやすい。



生木のまま原木を口クワで挽いて木地をつくる。この方法は、他の漆器産地では見られない。



使用する漆は、ウルシの木に傷をつけて樹液を採取する。明蓮川沿いに植樹されている。



1390年頃から始まったといわれる郷原漆器の生産は戦後一時途絶えたが、生活に密着した食器として使われ続け、地元有志により、平成元年から復活への取り組みがはじめられた。

参考：岡山県ホームページ

ひと・しぜん・いきもの 里山を利用するピオーネ栽培

真庭市の南に位置する三ツ木高原（旧北房町）。蒜山高原とは違い、オレンジ色の土壌と青白い石灰岩からなる台地である。ピオーネ栽培が盛んな高梁市や新見市に近く、集落の周りにはブトウ畑が広がっている。化学肥料に頼らない、落ち葉やススキのカヤをたいひにした土壌からおいしいピオーネが作られている。



ピオーネ



里山の落ち葉を集めてたいひにかえる。



ススキを刈り取ってたいひ用に乾燥。



里山の落葉樹はシイタケ栽培に利用。



苗木の根元にも落ち葉が使われる。



里山の恵みでおいしいピオーネが育つ。

そもそも 里山 って、なに？

集落の近くにあって、そこに住む人々と関わりのある林のこと。

かつて里山の木々は住宅などの建材に加工され、クヌギやコナラなどの落葉樹は 10～20 年ごとに根を残して伐採し、たきぎや木炭として使われ、落ち葉は掻き集めてたいひにしていた。

現代の生活様式は昔と大きく変わり、里山を利用することがなくなり、荒れた状態となっている。しかし三ツ木高原は、昔ながら里山の風景を見ることができる市内でも数少ない場所である。





今は利用されず、多くの木が生い茂った里山



三ツ木高原
人々の行う様々な営みからできた美しい里山

真庭市 川の生きもの図鑑

魚類(魚のなかま)

- | | | | |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>危</p>  <p>アマゴ 約30cm
 地方名：ヒラメ
 アブラビレがある。だ円形の青い模様、背にかけて朱色のはん点、背には黒色のはん点がある。魚釣りのため放流もされている。</p> |  <p>タカハヤ 7～15cm程度
 地方名：ドロバエ
 ウロコが小さく、体表がぬるぬるしている。体色は黄色がかった褐色で、体の側面には薄い黒い線がある。</p> |  <p>カワムツ 15～30cm程度
 地方名：アカハヤ、ハエ
 体色は淡い褐色で、体の側面に黒い線がある。胸ビレと腹ビレの前側が黄色。夏の繁殖期、オスの体色に赤色が目立つ。</p> |  <p>オイカワ 10～15cm程度
 地方名：シロハヤ、ハエ
 大きな三角形の尻ビレがある。体色は銀白色で、側面にうすい水色と桃色の模様がある。夏の繁殖期、オスの模様が特に色鮮やか。</p> |
|  <p>ムギツク 7～12cm程度
 地方名：クチボソ、ヨメツツキ、イチモンジ
 頭部が細長く小さい。短いヒゲがついている。体色は淡い褐色で、体の側面に黒くてはっきりした線が一本ある。</p> |  <p>アユ 10～30cm程度
 地方名：アイ
 尾ビレの前にアブラビレがある。体色はオリーブ色。胸ビレの後ろに明るい黄色の模様がある。真庭市では釣りのため放流されている。</p> |  <p>ウグイ 20～40cm程度
 体色は全体にこげ茶色を帯びた銀色で、体側に1本の黒い横帯が走る。腹部は繁殖期以外には銀白色。</p> |  <p>コイ 70～100cm程度
 地方名：マゴイ
 口に2対のヒゲがある。体高が高く、頭部は三角形。体色は暗い褐色で、腹面は灰白色。</p> |
|  <p>ニゴイのなかま 25～45cm程度
 地方名：ニコイ
 頭部は細長く、口にはヒゲがある。背中には、小さな三角形の背ビレがある。</p> |  <p>ギンブナ 15～40cm程度
 コイに似ているが、口ヒゲがない。体色は、灰褐色～オリーブ色がかったいて、銀色の光沢がある。</p> | <p>危</p>  <p>アブラボテ 6～10cm程度
 口に1対のヒゲがある。体高が高いが、平べったい。体色は、褐色を帯びた銀白色で、尻ビレのふちが黒い。</p> |  <p>カマツカ 15～30cm程度
 地方名：ドウチン、スナホリ、ホウセンボウ
 長くとがった口の先が下を向いている。ヒゲがある。体色は、青みをおびた黄褐色で、腹部は白色。</p> |
| <p>危</p>  <p>カジカ 10～15cm程度
 体つきはドンコにそっくり。背ビレがとげとげしい。体色は淡褐色～暗褐色まで変化に富む。</p> |  <p>ドンコ 10～25cm程度
 地方名：ウシヌスト、ドッシン、ドンコツ
 頭が大きく、ずんぐりした体つき。口が大きい。背ビレがうちょう型。体色は変化に富む褐色系。</p> |  <p>カワヨシノボリ 3～5cm程度
 地方名：ザッコ
 腹ビレが吸盤状で水槽に入れると縦にくっつく。体色は淡褐色～暗褐色。口から目にかけて2本の赤い筋がある。胸ビレの付け根も赤い三日月模様。</p> |  <p>チチブのなかま 6～15cm程度
 ハゼのような体つき。頬に淡青白色の模様がある。胸ビレの付け根には黄色い帯があり、その上に橙色の線がある。</p> |
|  <p>ドジョウ 10～15cm程度
 地方名：ドンジョウ、ドンキュウ
 体は細長く、円筒形。小さな口には5対のヒゲがある。体色は茶褐色～暗褐色などで、腹面は淡い色。</p> |  <p>シマドジョウ 6～14cm程度
 ドジョウと似た形。口は小さく、3対のヒゲがある。体色は全体的に淡い褐色。体の側面に、縞模様のように、黒っぽい円や楕円形の斑紋が並んでいる。</p> | <p>危</p>  <p>アカザ 10～15cm程度
 地方名：チョウカニ、チョウカリ
 小さなナマズのような形。暗赤色～明るい赤褐色で、腹面は白っぽい。注意：背ビレや胸ビレの棘には毒腺があり、刺されると痛い。</p> |  <p>ナマズ 40～60cm程度
 口に2対のヒゲがある。下あごが突き出ている。体色は濃い褐色で、緑がかった不規則な模様がある。鱗はなく、体はぬるぬるしている。</p> |
| <p>危</p>  <p>ウナギ 100～130cm程度
 体つきは細長く、表面はぬるぬるしている。体色は、暗い褐色で、腹面は銀白色。</p> | <p>危</p>  <p>オヤニラミ 約10cm
 地方名：ヨツメ
 口が大きく、体は太く短い。エラぶたの後ろに目玉模様がある。体色は褐色で縞模様がついている。</p> | <p>危</p>  <p>ミナミメダカ 約3.5cm
 地方名：ウキンバエ、メットン、メメト
 小さな魚で、背ビレは尾ビレの近くにある。体色は淡褐色で、上から見ると背中に黒い線がある。</p> | <p>外</p>  <p>ブラックバス 30～50cm程度
 別名：オオクチバス
 とても大きな口。体色は緑がかり、腹側は白っぽい。</p> |

甲殻類(エビやカニのなかま)

- | | | | |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|  <p>スズエビ 4～6cm程度
 体色は透明。黒い筋が体中にある。</p> |  <p>ヌマエビのなかま 3～4cm程度
 体色は半透明や褐色、透き通った緑色や青色。場所によって体色を変える。</p> |  <p>サワガニ 3～5cm程度
 甲羅は暗褐色で、足は朱色。</p> | <p>外</p>  <p>アメリカザリガニ 8～10cm程度
 大きなハサミを持つのはオス。体色は赤褐色。</p> |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

危 絶滅危惧種 絶滅の危機が増大している種

留 留意種 絶滅のおそれはないが、岡山県として記録しておく必要がある種

外 外来種 人間活動によって外国などから入ってきた種

貝類(巻貝や二枚貝のなかま)



モノアラガイ 約2cm(殻高)
淡い褐色～暗褐色。中身が少し透けて見える右巻きの貝。よく似たサカマガイは左巻き。



カワナナのなかま 約3cm(殻高)
細長い形の巻貝。色は暗褐色。



タニシのなかま 2～7cm程度(殻高)
丸い形の巻貝。色は黄や緑がかった褐色。



シジミのなかま 約3cm(殻長)
小さな二枚貝。幼貝は黄褐色だが、成長するにつれて褐色～黒色になる。

水生昆虫(水中にすむ昆虫のなかま)



ゲンジボタル(幼虫) 1.5～2cm程度
体つきが平らなイモムシ。胸部に6本のあしがあつる。



ガムシのなかま 約3.5cm
背中がドームのように膨らみ、全体的に黒色でつるつるしている。歩くようにバタバタ泳ぐ。



ゲンゴロウのなかま 3.5～4cm程度
体つきは卵型。長い毛の生えた後あしを平泳ぎのように回して泳ぐ。



マツモムシ 約1.3cm
水面で仰向けに浮かび、背泳ぎする。



ミズムシ 約1cm
体色は汚れたような灰色または茶色。体型は平たく、陸上で生活するダンゴムシに似る。



ミズカマキリ 約4.5cm
細長い棒のような体つき。お尻に針のような呼吸器が2本ある。



ヒラタドロムシ(幼虫) 約1cm
薄い円ばん型で、石や落ち葉にはりつく。



ヘビトンボ(幼虫) 約6cm
ムカデのような赤褐色の頭部。前にある6本があしで、おしりに並ぶのはエラ。



トンボのなかま(幼虫) 3～4cm程度
幼虫は水中で生活。ヤゴとも呼ばれる。種類により形も様々。



カゲロウのなかま(幼虫) 0.3～2cm程度
平べったい形のものが多い。尾は2～3本。



カワゲラのなかま(幼虫) 0.8～3cm程度
尾は2本。酸素の少ない水中では、腕立て伏せのような動きをする。



トビケラのなかま(幼虫) 0.7～3.8cm程度
イモムシ型で、6本のあしがある。砂粒や植物で巣を作るものが多く、水中ミノムシのよう。

両生類(カエルやイモリのなかま)



アカハライモリ 7～14cm程度
腹は赤色で、黒い模様がある。同じ模様のイモリがいるか比べてみよう。



ニホンアマガエル 2～5cm程度
背中は黄緑～茶色で、腹は白色。体の色が周りの環境によって変わる。



シュレーゲルアマガエル 3～6cm程度
体はきれいな緑色。アマガエルのように目の後ろに黒い筋がないのが見分けのポイント。



トノサマガエル 5～10cm程度
体色は緑や茶褐色、灰色のものまで色々。鼻先からお尻まで、背中に一本の線がある。



ツチガエル 3～6cm程度
背中にイボ状の突起がある。腹面は茶色っぽく、ざらざらしている。



ヌマガエル 3～6cm程度
背中にイボ状の突起がある。腹面は白っぽく、つるつるしている。



カジカガエル 4～9cm程度
体色は全体的に地味で、暗褐色や灰褐色など。フイフイと鳴く。



ウシガエル 12～18cm程度
目の後ろに、目より大きな鼓膜が目立つ。体は暗い緑色や褐色で、迷彩柄のような模様がある。

爬虫類(カメのなかま)



ニホンイシガメ 13～18cm程度
甲羅の後ろのふちがギザギザ。目が黒くてまんまる。



クサガメ 13～18cm程度
甲羅の後ろのふちがなめらか。甲羅に3本の盛り上がった線がある。



スッポン 20～35cm程度
首が長く、鼻先が飛び出している。甲羅は全体的になめらか。



ミシシippiakamimigame 12～28cm程度
目の後ろの赤い模様がよく目立つ。



